

# 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に関する研究

—教科等横断型教材の開発・活用を通して—

教科教育室	清水 幸一	横田 義広	三浦 茂樹
	山本 孝江	亀岡 修	牧 ゆかり
	都築 克征	真鍋 昌嗣	近藤 安美
	加藤 伸弥	飛田 善広	西平 幸
	三瀬 裕子	越智 亮平	清水 裕士

## 1 研究の目的

新学習指導要領では、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」を目指し、学びの質を高める授業改善が求められていることから、本センターでは、教材開発を通して授業改善を支援することとした。本研究では、小学校国語科、算数科、社会科、家庭科、外国語活動・外国語科において、カリキュラム・マネジメントの視点から「他の教科等の既習事項や学習内容と関連付けた授業及び単元例」となる教材の開発に2か年継続で取り組んだ。2年次となる本年度は、開発した教材の有効性の検証を行い、更なる改善と普及を図った。

## 2 研究の内容

### (1) 外国語活動・外国語科と算数科における教科等横断型教材

#### ア 開発教材と検証

外国語活動・外国語科の授業における英語表現への慣れ親しみや定着を目的とした場面において、算数科の既習内容も復習することができる教科等横断型教材を開発した。教材は11種類あり、各教材ともゲーム的な要素を持たせて、児童が楽しく競い合いながら学べるよう工夫した。本教材の実施に当たり、検証対象となる児童の実態把握のためのアンケート調査、指導者や児童が実践方法やルールをイメージするための視聴覚教材の作成を行った。これらの事前活動の後、第6学年を対象に、開発教材を使用した授業実践を行い、有効性を検証した。

#### イ 成果と課題

実践後のアンケート結果では、「英語や算数に慣れ親しむことができた」と、多くの児童が回答しており、「英語表現への慣れ親しみ」の視点では一定の成果はあった。また、本教材の内容を家庭で行う児童もあり、児童の「主体的な学び」や、学習した英語表現の定着につながることで期待できる結果となったが、算数科の既習内容の復習としての成果はあまり確認できなかった。算数科の授業においても、ねらいを達成するための授業展開等の検討を継続していく。

### (2) 社会科と国語科、家庭科と国語科における教科等横断型教材

#### ア 社会科と国語科における開発教材の成果

研究1年次に作成した教科等横断型教材を、在職期間が10年に達した小学校教諭を対象とする研修で活用し、本教材の有効性について受講者と協議を行うことで、検証した。本教材は、社会科・国語科が目指す児童の姿の実現に加え、課題解決学習の過程における「深い学び」の実現も期待できるとの回答を得た。

#### イ 家庭科と国語科における開発教材の成果

研究1年次に作成した教科等横断型教材を、異なる教職経験の小学校教諭が受講する研修で活用し、本教材の有効性について受講者と協議を行うことで、検証した。本教材は、家庭科においては課題解決学習の場面での相手に伝える活動の充実、国語科においては書く活動の充実が期待できるとの回答を得た。

## 3 研究のまとめ

開発した教材は、それぞれの教科等における既習事項や学習内容を関連付けたことにより、児童の興味・関心を高めるとともに、児童が見通しを持って授業に臨む一助となった。また、粘り強く学習に取り組む姿が見られたことや苦手意識を持つ児童の意欲が高まったことなど、「主体的な学び」での一定の成果が期待できる結果となった。今後は、「学習内容に関連した各教科の『見方・考え方』を働かせる視点」「深い学びの視点」での教科等横断型教材の開発に取り組み、本センターが実施する研修を通じて開発教材の普及に努めていきたい。